シラバス参照

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	川中　敬一		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	火５		
講義室	1203	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード：　学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 　ＤＰ１－Ｅ　〔学識・専門技能〕　専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 　ＤＰ４－Ｆ　〔探究力・課題解決力〕　問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 　ＤＰ４－Ｉ　〔理解力・分析力〕　文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 　ＤＰ５－Ｊ　〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 　ＤＰ６－Ｋ　〔表現力・対話力〕　文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 　ＤＰ７－Ｃ　〔他者理解・倫理観・公共心〕　人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 　ＤＰ７－Ｌ　〔協働力・牽引力〕　集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 　ＤＰ８－Ｍ　〔省察力〕　知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ＣＲコード：　学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 　Ｂ１　自己啓発（5%） 　Ｃ１　倫理的思考・社会認識（5%） 　Ｅ１　学識と専門技能（15%） 　Ｆ１　探求と論拠（5%） 　Ｆ２　課題解決（5%） 　Ｉ１　理解・分析と読解（5%） 　Ｉ３　情報分析（5%） 　Ｊ１　継続的学修基盤（5%） 　Ｊ２　創造的思考（10%） 　Ｋ１　ライティング・コミュニケーション（10%） 　Ｋ２　オーラル・コミュニケーション（5%） 　Ｌ１　チームワーク（15%） 　Ｍ１　統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	防衛省本省及び研究機関、並びに、自衛隊上級司令部幕僚、部隊指揮官、防衛大学校教官等勤務、そして、周辺諸国の国家・軍事戦略の研究と対謀略活動を含む情報活動を加えて３０余		

	年勤務してきました。この職務上の経験を通じて、国際関係においては、文化、経済と軍事とが密接に絡み合い、それが政治活動の原動力となっている現実を痛感しました。こうした経験に基づいて、日本ではあまり顧みられない軍事を視野に入れたトータル・グローバリズムを考えていきたいと思います。（随時）
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導します。授業形態は演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（ライブ配信型）を取り入れます。 ■キーワード； 積極性、論理性、独創性
授業の趣旨	■副題 卒業研究及び卒業論文の完成 ■授業の目的 ゼミナールⅢまでに蓄積した知識、思考、指導・指摘を駆使して、論文執筆の完遂を目標に修正を加え、更なる教員による指導・助言及び他学生による指摘を求め、統合的・応用的学修の成果たる卒業論文を完成させ、高度な学識と専門技能とを修得することができます。 ■授業のポイント 授業進行方式は、ゼミナールⅢに準じます。
総合到達目標	■学生は、卒業研究活動を通じて、以下の能力を体得することができる。（第１～１５回） a.テーマ選定を通じた自身の関心事を具体化する自己啓発力と社会認識力 b.資料収集及び処理を通じた知識増強と情報分析力 c.論文執筆力を通じたライティング・コミュニケーション力 ■学生は、学生発表・討議活動を通じて、以下の能力を体得することができる。（第１～１５回） a.司会進行を通じたチームワークにおける指導力 b.発表及び質疑を通じたオーラル・コミュニケーション力 ■学生は、以上の活動を通じて、学識と専門技能を向上させ、継続的学修基盤を構築し、もって統合的・応用的学修の基礎を獲得することができる。（第１～１５回）
成績評価方法	■学生発表・討議１２回（60%） （評価の観点） 以下の点を重視します。 a.指定された期日に発表を実行できたか。 b.発表内容の主旨が明確に他者へ伝わっていたか。 c.定められた様式を守っているか。 d.与えられた時間内に発表を完了できたか。 e.質疑に対する応答が論理的、かつ、柔軟であるか。 f.事前に発表資料（パワーポイントもしくはレジュメ）を準備、配布したか。 g.発表者に対する質疑は積極的、かつ、論理的であったか。 h.教員及び他学生の指導、指摘を記録していたか。 i.司会担当学生の司会は適切であったか。 （フィードバックの方法） a.学生の提出物及び発言に対する授業中における教員からの指導・助言をもって、研究活動及び論文執筆効率化促進のための参考を提供します。 b.教員によるゼミナール専用ノートの随時点検をもって、授業における教員及び他学生の指導ないし指摘の活用情況確認のための参考を提供します。 ■論文案提出１回（40%）：適用ルーブリック （評価の観点） 以下の点を重視します。 a.提出期限を守ったか。 b.定められた様式を守ったか。 c.研究目的を達成したか。 d.論理の展開が妥当であるか。 e.独創性を担保しているか。 f.使用資料は適切であるか。 g.その他、教員による指導、他学生の指摘を参考、反映しているか。 (フィードバックの方法) 以下の点を文書、又は、メールによって教員から学生に伝達します。 a.指導ないし指摘事項が反映されているか。 b.研究活動及び論文執筆が、残余時間と均衡がとれているか。 c.その他、必要事項。

<table>
<tr><td>履修条件</td><td>ゼミナールⅠ、Ⅱ及びⅢを履修していること。</td></tr>
<tr><td>履修上の注意点</td><td>■各人は、備忘録と資料保管を兼ねたゼミナール専用ノートを必ず準備し、毎授業持参してください。
■参考書である『アカデミック・スキルズ』及び『分かりやすい公用文の書き方』を論文執筆の際には、必ず利用して、学術界、或いは、官公庁の文書形式に準ずる文章作成に習熟してください。
■研究過程においては、安易な語句の使用を戒め、１つ１つの語句の正確な意味を確認しながら活動を続けてください。
■論文完成期日までの残余時間を念頭に置いた効率性を重視した論文執筆に努めてください。そのためには、教員を積極的に利用してください。</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td>
<table>
<tr><th>回</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>①授業テーマ
　論文執筆に関する全般的指導（第１回）
②授業概要
　学生は、教員からの全般的注意を参考として研究活動の適否を再点検することにより、爾後の研究活動の指針を最終的に決定することができる。また、学生は、論文執筆に際しての注意事項を確認することができる。（Ｅ１・Ｊ１）
なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。
③予習（120分）
　ゼミナールⅢ最終回次授業の結果に鑑みた修正研究計画及び論文執筆中成果を再読、要すれば修正・加筆して、自身用及び教員用のコピーを準備し授業に持参する。
④復習（120分）
　授業中における教員からの指導事項を記録したゼミナール専用ノートを再読し、研究計画書及び執筆中論文成果に反映させる。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>①授業テーマ
　研究活動・論文執筆途中成果報告（第１回第１グループ）
②授業概要
　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。
　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１）
　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２）
　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。
③予習（120分）
　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。
④復習（120分）
　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>①授業テーマ
　研究活動・論文執筆途中成果報告（第１回第２グループ）
②授業概要
　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。
　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１）
　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２）
　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。
③予習（120分）
　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。
④復習（120分）
　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

	4	①授業テーマ 　研究活動・論文執筆途中成果報告（第１回第３グループ） ②授業概要 　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） 　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
	5	①授業テーマ 　研究活動・論文執筆途中成果報告（第２回第１グループ） ②授業概要 　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） 　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。③予習（120分） 　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
	6	①授業テーマ 　研究活動・論文執筆途中成果報告（第２回第２グループ） ②授業概要 　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） 　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
	7	①授業テーマ 　研究活動・論文執筆途中成果報告（第２回第３グループ） ②授業概要 　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に

		留意する。 　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） 　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
	8	①授業テーマ 　論文執筆に関する全般的指導（第２回） ②授業概要 　学生は、予め示達された日時までに提出した論文途中成果に対する修正指導を受けることにより、論文の完成度を向上させることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｋ１・Ｍ１） 　なお、学生提示の成果について、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　予め示達された日時までに提出した自身の論文を再読する。その際、前回報告以降に加筆・修正した部分を理由とともに、教員が明確に理解できるよう注意書きを添えること。 ④復習（120分） 　提出した論文に対する教員からの指導事項を反映させ、最終的な論文執筆を加速させる。
	9	①授業テーマ 　研究活動・論文執筆途中成果報告（第３回第１グループ） ②授業概要 　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） 　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
	10	①授業テーマ 　研究活動・論文執筆途中成果報告（第３回第２グループ） ②授業概要 　指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） 　なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分）

	授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
11	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第３回第３グループ） ②授業概要 指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
12	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第４回第１グループ） ②授業概要 指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
13	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第４回第２グループ） ②授業概要 指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） なお、学生の発表について、適時、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
14	①授業テーマ 研究活動・論文執筆途中成果報告（第４回第３グループ） ②授業概要 指名された司会学生は、指定された学生（４名）による研究活動・論文執筆途中成果

		報告発表を運営することにより、討議活動における指導力を涵養できる。（Ｃ１・Ｌ１）特に、発表学生による発表要旨の総括と発表に対する他学生による質疑の活性化に留意する。 　発表学生は、限定された時間内に、自身の主張の要旨を端的に傍聴側に伝えるコミュニケーション能力を涵養することができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｆ２・Ｊ２・Ｋ１・Ｋ２・Ｍ１） 　傍聴学生は、発表学生の論理構成や事実関係の可否を判断することにより、自身の研究活動・論文執筆の参考を得ることができる。（Ｅ１・Ｆ１・Ｉ１Ｊ１・Ｋ２） 　なお、学生提出の成果について、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　発表学生は、発表用レジュメをＡ４版１～２枚にまとめ、教員を含めた総員分のコピーを準備し授業に持参する。 ④復習（120分） 　授業中における教員からの指導及び他学生からの指摘を記録したゼミナール専用ノートを再読し、自身の論文執筆に反映させる。
	15	①授業テーマ 　最終全体指導 ②授業概要 　学生は、最終指導を反映させた最終提出用の論文執筆を通じて、総合的・応用的学修を完成させることができる。（Ｅ１・Ｍ１） 　なお、学生提出の成果について、担当教員の実務経験を交えた助言を行う。 ③予習（120分） 　第１４回次授業までの教員からの指導及び他学生からの指摘を反映させて加筆・修正した論文を指定日時までに教員に手交する。 ④復習（120分） 　教員による最終指導を加えた返却論文を再修正し、最終提出のための様式を整える。
関連科目	危機管理基礎演習Ⅰ(RMGT2601）、ゼミナールⅠ（RMGT4601）、ゼミナールⅡ（RMGT4602）、ゼミナールⅢ（RMGT4603）	
教科書	以下の他、授業中に逐次、教員から別途案内します。	
参考書・参考ＵＲＬ	以下の他、授業中に逐次、教員から別途案内します。 （１）佐藤望『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会、2006年、ISBN:978-4-7664-1960-3（定価：1,000円（税別）） （２）礒崎陽輔『分かりやすい公用文の書き方　改訂版（増補）』ぎょうせい、2018年、ISBN:978-4-324-10525-2（定価：2,000円（税別））	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先　開講時に告知します。 ■オフィスアワー　木曜日３限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室等で対応します。	
研究比率	■危機管理領域との対応 　災害マネジメント30%：パブリックセキュリティ30%：グローバルセキュリティ40%：情報セキュリティ0% ■危機管理学と法学とのバランス 　危機管理学90%：法学10%	

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.